



**【第2期：行先の選択】**

余暇活動選択でドライブを選択すると、行先選択ボードを提示し、Aさんに行先を選んでもらいました。  
 行先を選択するようになると、ドライブ中にハンドルを操作しようとする行動は見られなくなりました。



**【第3期：行先の拡充】**

ニーズの高いドライブの行先をより充実させるため、地域のコンビニエンスストアやドラッグストアを行先選択ボードに追加しました。そうすると余暇活動に買い物が加わり、Aさんは好きなカップ麺などを購入することが出来るようになりました。



**3.考察**

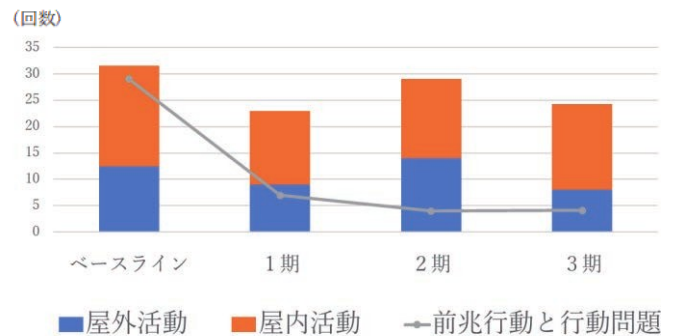
不要な刺激を減らし、本人の強みを活かした選択方法を用いたことは、活動への集中力が高まり、前兆行動及び行動問題の軽減に有効でした。

支援時期	支援上の課題	支援方法	結果	仮説	変更点
ベースライン期	活動に取組めない	具体物を提示し、選択してもらう	1つの活動を持続できなかった前兆行動	活動の拒否 具体物とは視覚的な刺激として強すぎる	本人が理解できる写真カードで提示する
第1期	1つの活動を持続できない	写真カードで余暇活動を選択してもらう	活動選択まできたドライブ中に逸脱した	行先の拒否	ドライブの行先を選択する
第2期	ドライブ中に逸脱する	写真カードでドライブの行先を選択してもらう	行先選択まできたドライブ中の逸脱は減少	本人のニーズと合っている	行先を増やす
第3期	ドライブの行先の充実	行先を3か所から5か所に増やす	地域のコンビニなどで買い物ができた	本人のニーズと合っている	

不要な刺激を減らし、本人の強みを活かした選択方法を用いたことは、活動への集中力が高まり、前兆行動及び行動問題の軽減に有効でした。

選択した活動の内容は支援期間によって変動しており、時期によってニーズが変化していることが分かります。活動選択そのものを拒否することもありましたが、その時は横になって穏やかに過ごさせていたことから、休息として受け入れていました。拒否も含めて選択できる機会があり、ニーズに応じた活動が提供されることで、行動問題を起こさずに過ごすことができること、またニーズの高い活動をきっかけに買い物活動という新しい活動を増やし、余暇時間を充足できることが分かりました。

表1：活動選択の回数と前兆行動と行動問題の生起数の推移



**4.まとめ**

今回の事例では、行動問題を本人のニーズに沿えていないこと、退屈さの表れと捉えました。

本人の強みを活かしたツールを用いながら、ニーズを表出する機会を設け、丁寧に汲み取ろうとする姿勢が支援の前提になります。

そして、ニーズは日々変化することも忘れずに、今、目の前にいるAさんのニーズに合っているのかわか、支援を定期的に見直す必要があります。

Aさん自身が「楽しい」「もっとやってみたい」と思えるような活動を広げていけるよう、これからも支援に携わっていきたいと思います。